

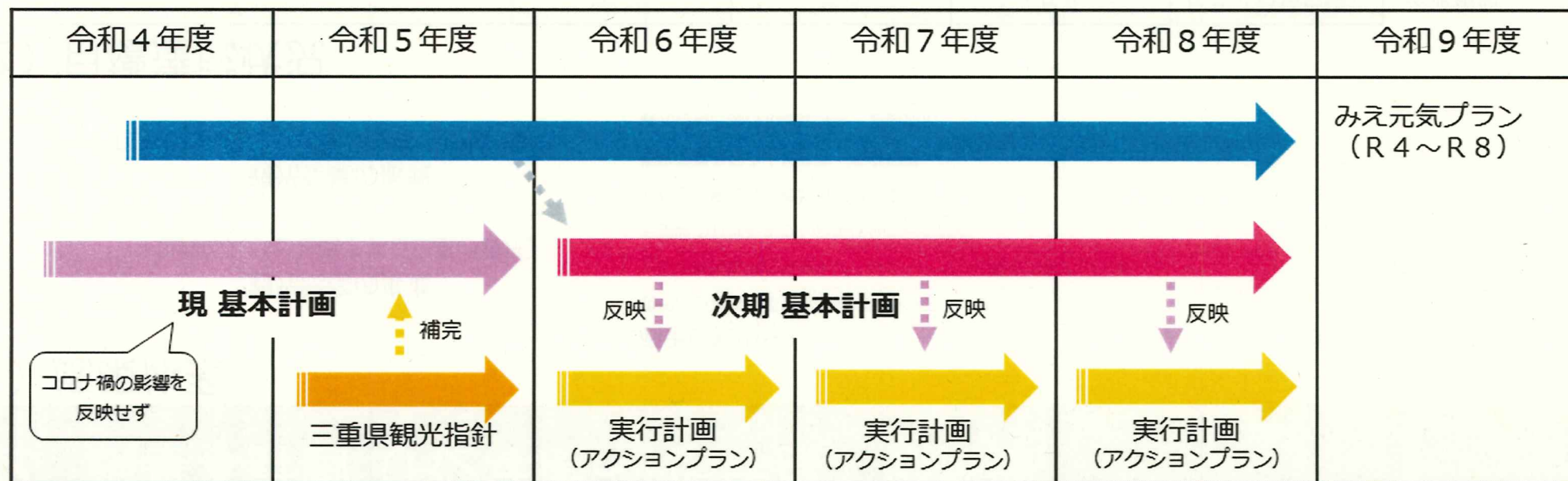
次期三重県観光振興基本計画 骨子案

三重県観光部

【目次】

- 1 三重県観光振興基本計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 現基本計画（R2年度～R5年度）の概要・・・・・・・・・・・・・・2
- 3 次期基本計画策定のコンセプト・・・・・・・・・・・・・・3, 4
- 4 現状認識
 - (1) 持続可能な観光への関心の高まり・・・・・・・・・・・・・・5
 - 持続可能な観光【経済面】～経済効果～・・・・・・・・・・・・6
 - 持続可能な観光【経済面】～観光従事者の現状～・・・・7
 - 持続可能な観光【社会面】【環境面】・・・・・・・・・・・・8
 - (2) コロナ禍からの回復・・・・・・・・・・・・・・9
 - (3) インバウンドの現状・・・・・・・・・・・・・・9
- 5 三重県観光の強みと弱み・・・・・・・・・・・・・・10～12
- 6 次期基本計画の骨子案・・・・・・・・・・・・・・13, 14

- 「みえ観光振興に関する条例」に基づく「観光の振興に関する基本的な計画」として策定。
- 三重県の中期の戦略計画である「みえ元気プラン」の計画期間（R4～R8）にあわせ、次期基本計画については令和8年度までの3年間の計画とする。
- 基本計画改定後においては、計画の実効力を高めるため、毎年の実行計画（アクションプラン）を策定し、着実に取組を進めていくこととする。



2 現基本計画（R2年度～R5年度）の概要

(1) 施策体系

(戦略)

(施策展開の柱)

観光誘客の推進 「世界の人びとを魅了する三重の観光」	世界から選ばれる三重の観光ブランディング
	一流の観光資源の磨き上げ・オンリーワンの観光の魅力づくり
	三重県の立地を生かした国内外からの誘客
観光産業の振興 「TOKOWAKA ～変革し続ける観光産業へ～」	旅行者目線に立った旅行環境の変革
	観光産業を担う人材育成・若者定着
	観光産業に関わる組織改革・連携強化

(2) 目標達成状況

		R 2		R 3		R 4		R 5 (最終目標)
観光消費額 (億円)	目標	5,700	57.6%	5,830	61.1%	5,970	71.5%	6,000億円以上
	実績	3,283		3,562		4,269		
観光客満足度 (%)	目標	95.0	98.9%	95.0	97.9%	95.0	99.4%	95.0%以上
	実績	94.4		93.5		94.4		
延べ宿泊者数 (万人)	目標	910	55.7%	920	56.3%	940	73.9%	950万人
	実績	507		518		695*		
外国人延べ宿泊者数 (万人)	目標	45	13.1%	52	3.3%	59	8.5%	68万人
	実績	5.9		1.7		5.0*		
国際会議開催件数 (件)	目標	17	5.9%	18	0%	19	26.3%	20件
	実績	1		0		5		
宿泊・飲食サービス業の 収入全国順位 (位)	目標	12	—	11	—	11	—	10位以内
	実績	15		14		26		

※速報値

(3) 評価

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のための往来制限、水際対策など、観光産業は大きな影響を受けており、目標達成は厳しい状況。一方、さまざまな観光需要喚起策や安全・安心な観光地づくりなどに取り組むことにより、一定の成果は出ている。
- 観光DXを推進するため、「みえ旅おもてなしプラットフォーム」を活用した旅行者データの蓄積に着手。

3 次期基本計画策定のコンセプト

(1) 10年後を見据え、今後3年間で重点的に取り組む内容

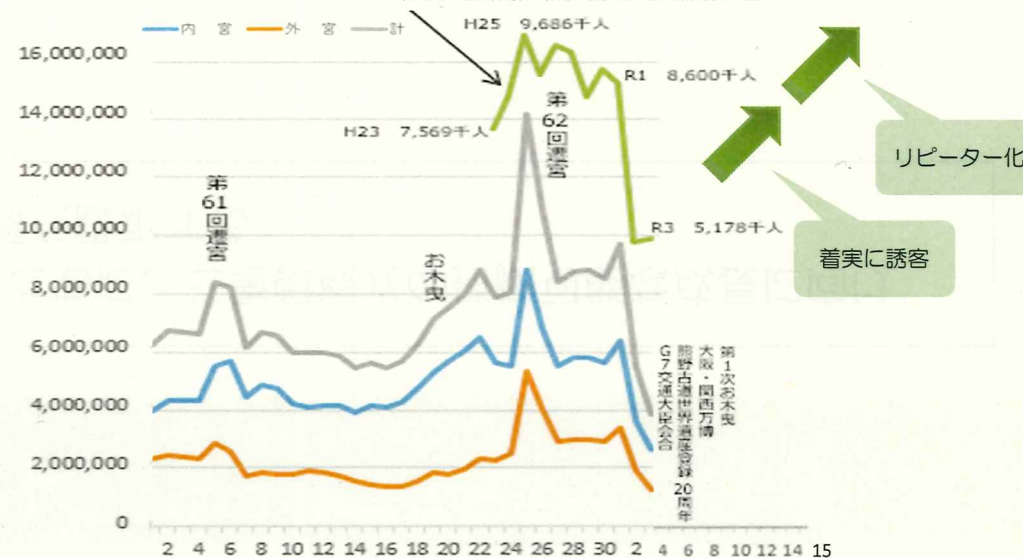
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
計画	現計画	次期基本計画			次期基本計画						
イベント	G7 交通大臣 会合	熊野古道 世界遺産 登録20周年	大阪・ 関西万博	三重県政 150周年 次期式年遷宮 お木曳行事 アジア競技 大会/愛知	ワールド マスターズ ゲームズ 関西			次期式年遷宮 宇治橋架け 替え渡始式			次期 式年遷宮
インフラ		新宮紀宝 道路 開通予定		東海環状 自動車道 県内全面 開通予定	リニア 品川-名古屋間 運行開始予定 セントレア 第2滑走路 供用開始予定			大阪 I R 開業予定			

①10年後を見据え、三重の強みを生かした観光コンテンツを活用し、とりわけ首都圏や海外から県内各地へ着実に誘客するために重点的に取り組むべき内容を盛り込む。

②次期式年遷宮の好機を活用し誘客を図るとともに、次期式年遷宮で三重県を訪れた観光客に、その後もリピーターとして来訪してもらえるよう、取り組むべき内容を盛り込む。

伊勢神宮参拝者数の推移

県内延べ宿泊者数の推移 (観光庁・宿泊旅行統計調査)



三重県観光が10年後にめざす姿を提示するとともに、三重県観光の持続可能な成長に向け次期基本計画の3年間において達成すべき目標を設定する。

(2) 10年後のめざす姿のイメージ

『三方よし（旅行者よし、事業者よし、地域住民よし）の持続可能な観光地』

(3) 次期基本計画の目標イメージ

○三重県の経済発展に観光産業が大きく寄与し、人口減少にともなう地域消費の減少をカバーしている

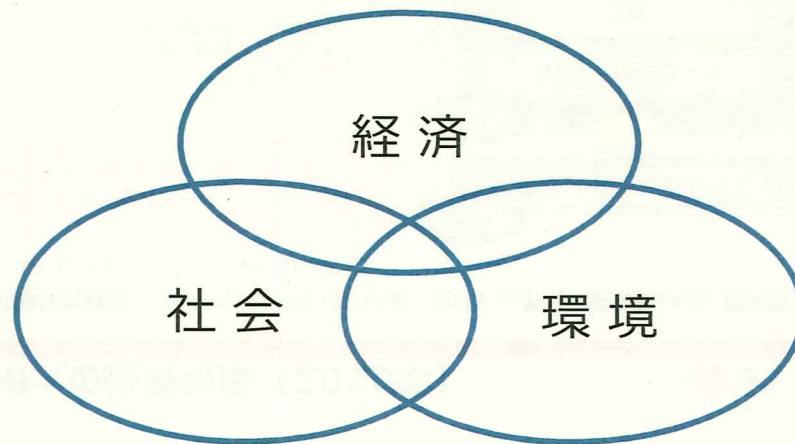
- ・旅行者よし：観光客が来てよかったと感じ、家族や友人に勧めてくれている
- ・事業者よし：観光産業の利益が増え、従事者がいきいきと働き、おもてなしをしている
- ・地域住民よし：県民が、地域における観光の効果を感じ、観光客を歓迎している

(1) 持続可能な観光への関心の高まり

＜持続可能な観光とは＞

観光客、業界、環境および観光客を受け入れる
コミュニティのニーズに対応しつつ、現在お
よび将来の経済、社会、環境への影響を十分に
考慮する観光

～UNWTO（国連世界観光機構）～



○ 2020年6月 日本版「持続可能な観光ガイドライン」（JSTS-D）策定

- ・ 国際基準に準拠したガイドラインを開発
- ・ 各地方公共団体や観光地域づくり法人（DMO）等が、持続可能な観光地マネジメントを行えるよう、令和2年度からモデル事業を実施
- ・ 国際的な認証機関による評価・表彰制度の活用によるブランド力の向上

○ 2023年3月 観光立国推進基本計画策定

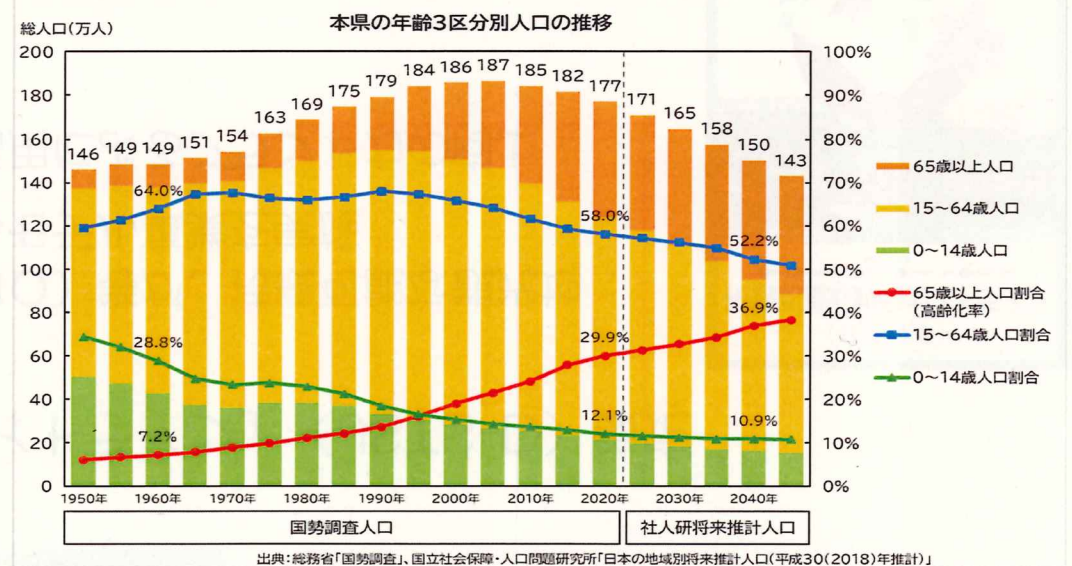
- ・ 新たな目標数値として「持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数」を100地域とすることが示される（2025年まで）



○持続可能な観光【経済面】

～経済効果～

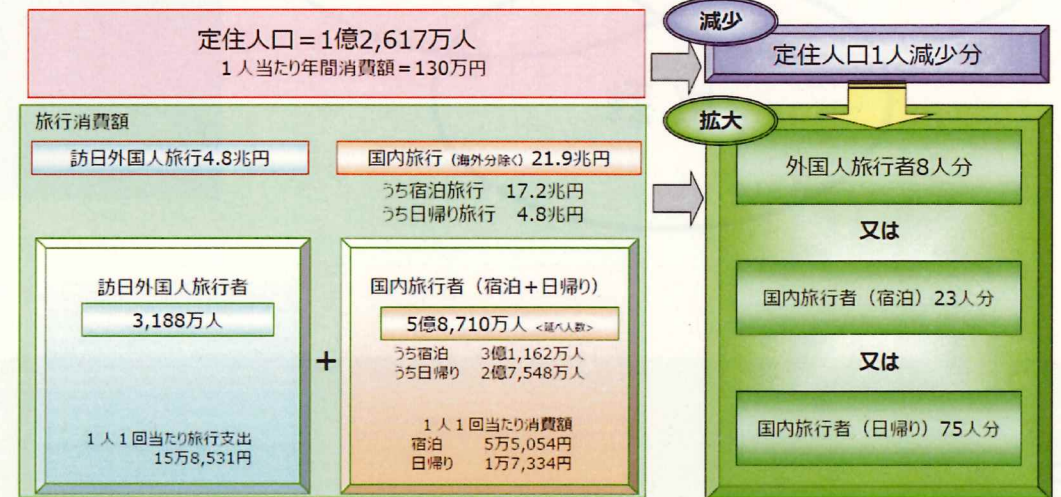
- 三重県の人口は、2007年をピークに減少局面に入り、2020年は177万人。
- 「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」によると、2030年には165万人となり、10年間で12万人減少すると推定されており、県では今年度、三重県人口減少対策方針（仮称）を策定し、人口減少対策に取り組んでいく。
- 三重県で2030年までの10年間で減少する人口の年間消費額は1,560億円^{*}に相当（推計）。
^{*}計算方法：12万人×130万円（定住人口1人当たり年間消費額）
- 持続可能な地域経済を維持していくため、旅行者の増加による経済効果を高めていくことが必要。



観光交流人口増大の経済効果（2019年）



○ 定住人口1人当たりの年間消費額（130万円）は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者8人分、国内旅行者（宿泊）23人分、国内旅行者（日帰り）75人分にあたる。



○持続可能な観光【経済面】

～観光従事者の現状～

• 平均年収

令和4年の三重県における産業別平均年収の全体平均は 481万円に対し、「宿泊業」の平均年収は **335万円** で、産業別で最下位。



• 平均勤続年数

令和4年の三重県における産業別平均勤続年数の全体平均は 12.4年に対し、「宿泊業」は **9.2年**と短い。



○持続可能な観光【社会面】

◇ みえ県民1万人アンケート

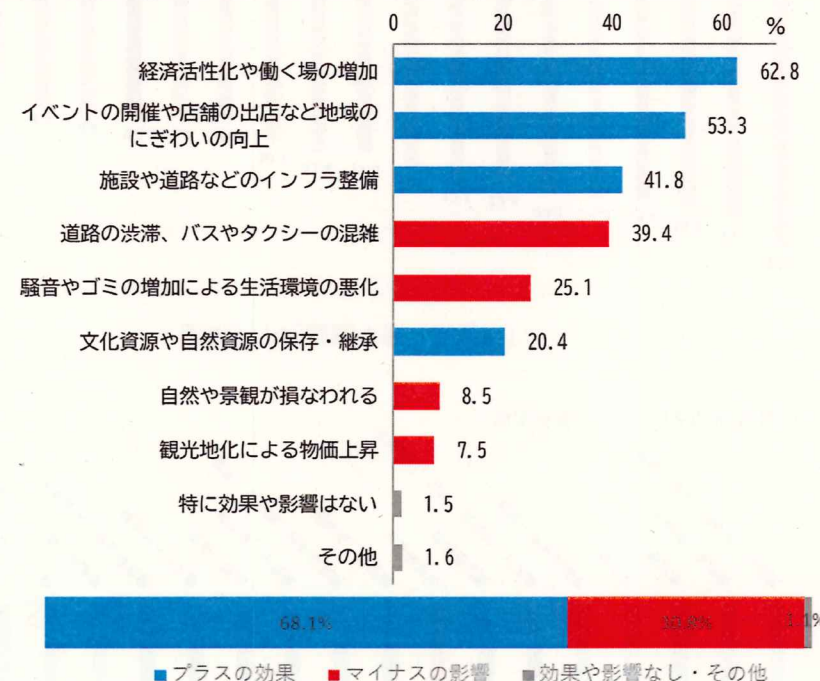
- ・観光客が増えることで、「経済活性化や働く場の増加」「地域のにぎわいの向上」など、プラスの効果があると回答した割合は、68.1%。
- ・一方、「道路の渋滞」「生活環境の悪化」など、マイナスの影響があると回答した割合は、30.8%。
- ・県民の生活と観光の良いバランスを維持、発展させる施策展開が重要。

○持続可能な観光【環境面】

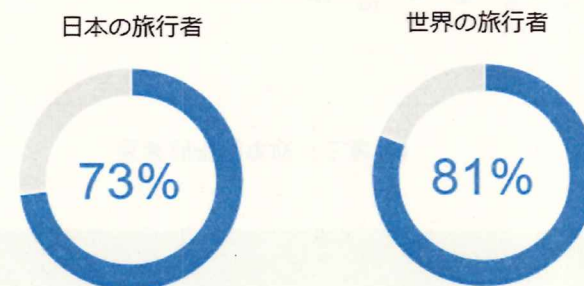
◇ 「サステナブル・トラベル」に関する調査レポート

- ・「サステナブルな旅は自身にとって重要である」と回答した日本の旅行者は73%、世界の旅行者は81%。
- ・「今後1年間において1回以上はサステナブルな宿泊施設に滞在したい」と回答した世界の旅行者は78%に上る。

みえ県民1万人アンケート（第1回）速報値
「観光客が増えると、どのような効果や影響があると思うか」



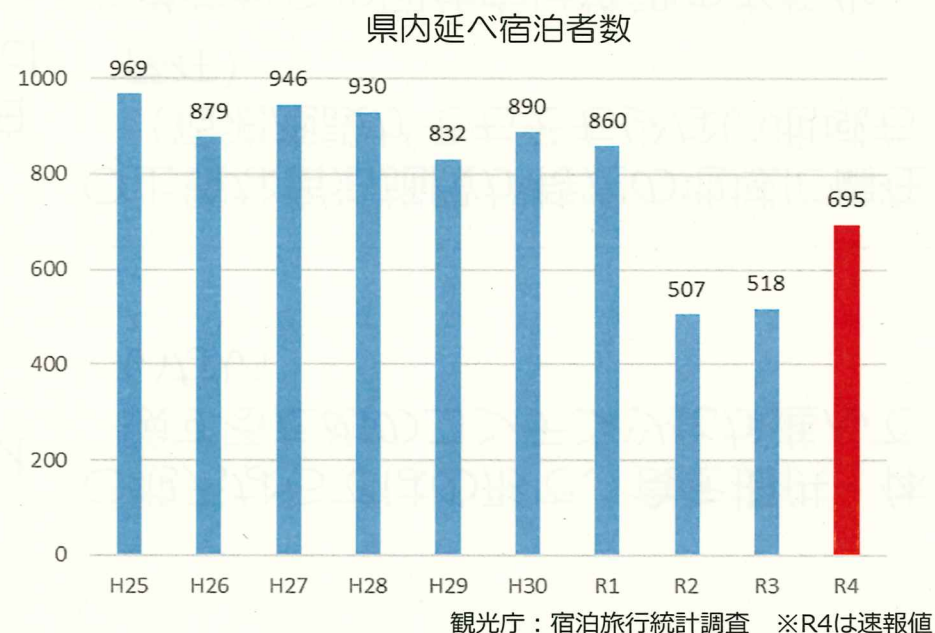
サステナブルな旅は自身にとって重要であると回答した人の割合



Booking.com

(2) コロナ禍からの回復

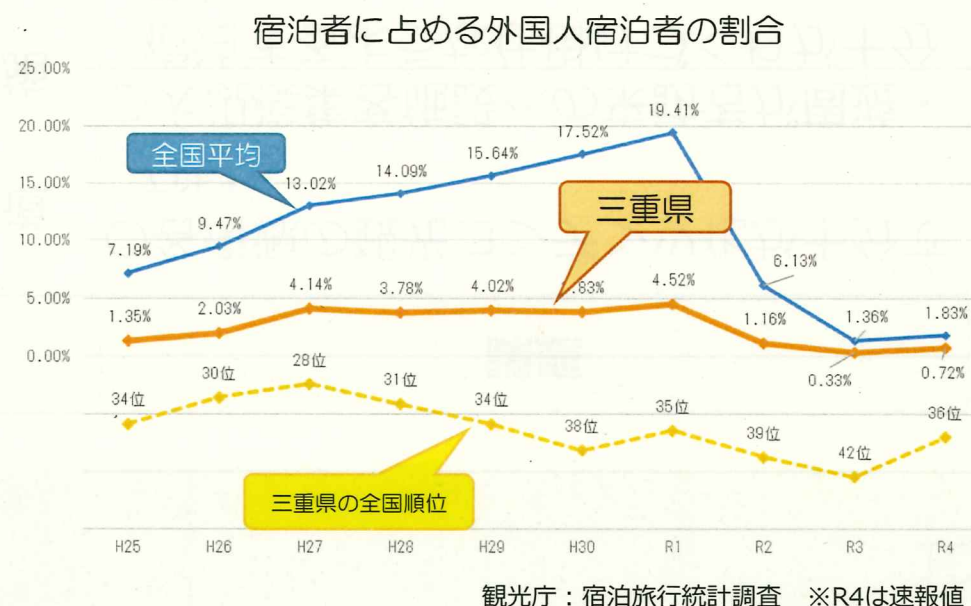
- 三重県の観光業はコロナ禍により深刻な影響を受けたが、令和4年の延べ宿泊者数は約695万人（※速報値）となり、コロナ禍前の約8割と一定程度回復。
- 直近の延べ宿泊者数は、コロナ禍前（令和元年）と比べ令和4年11月は96.6%（72万人）、12月は107.2%（70万人）※と回復基調が鮮明となっている。（※速報値）



(3) インバウンドの状況

- 外国人宿泊者数は、コロナ禍前の令和元年まで堅調に推移。
- 一方、延べ宿泊者に占める外国人宿泊者の割合は、全国平均との比較で低位にあり、将来性のあるインバウンド需要への対応に余地あり。

※なお、観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」におけるモデル観光地として「伊勢志摩及び周辺地域エリア」が選定された。



項目	優位な点・現状	課題
観光資源	<ul style="list-style-type: none"> ○伊勢神宮、自然景観、熊野古道等の自然・歴史資源が豊富 ○知名度が高く国内有数の観光施設が複数存在 	<ul style="list-style-type: none"> ○各資源の観光コンテンツ化が十分でない ○大規模集客施設への来訪者が周遊・宿泊するような仕掛けづくりが十分でない
特に食	<ul style="list-style-type: none"> ○松阪牛、海産物等の豊富な素材の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元ならではの形で、食を提供・体験するためのコンテンツ化が進んでいない
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥羽～志摩エリアに上質な宿泊施設が集積（MIE Luxury Hotel Belt） 	<ul style="list-style-type: none"> ○上質な宿泊施設が特定の地域に偏在（宿泊施設がそもそも少ない地域も存在） ○従前からの団体向け施設の老朽化、廃ホテルの存在

項目	優位な点・現状	課題
<p data-bbox="78 384 439 496">プロモーション戦略</p> <p data-bbox="141 632 443 743">(特に) インバウンド</p> <p data-bbox="141 919 443 1031">(特に) MICE誘致</p>	<p data-bbox="465 384 1214 496">○関西圏、中京圏を中心とした、団体客向けの誘客に強み</p> <p data-bbox="465 600 1214 775">○SNSや動画等、オンラインを活用したFIT向けプロモーションの実施</p> <p data-bbox="465 887 1214 1062">○伊勢志摩サミット（H28）から令和3年までに55件の国際会議が開催</p>	<p data-bbox="1227 360 2123 536">○首都圏における戦略的な誘客の強化</p> <p data-bbox="1227 424 2123 536">○来訪客の再訪率などプロモーションに必要なデータの欠如</p> <p data-bbox="1227 568 2123 679">○海外で三重の観光の魅力がまだ十分に認知されておらず一層の強化が必要</p> <p data-bbox="1227 711 2123 823">○日本人団体客を期待し、インバウンドを求めない地域・事業者も多く存在</p> <p data-bbox="1227 871 2123 983">○コロナ禍により、一定成果を見せていた国際会議誘致活動が途絶える</p> <p data-bbox="1227 999 2123 1110">○産業観光の取組を国際会議誘致につなげきれていない</p>
<p data-bbox="129 1286 383 1334">地域の取組</p>	<p data-bbox="465 1142 1214 1318">○県内のDMOは13法人（地域連携DMO:3法人、地域DMO:10法人）</p> <p data-bbox="465 1334 1214 1493">○全県DMOによるデジタルプロモーション（観光三重HP等）の実施</p>	<p data-bbox="1227 1142 2145 1254">○各DMOの運営体制が脆弱（安定的な運営資金の確保、DMO運営人材の不足）</p> <p data-bbox="1227 1270 2145 1382">○北勢エリアを中心にDMOが存在しない地域がある</p> <p data-bbox="1227 1398 2145 1509">○戦略立案・実行など観光地経営の司令塔としての機能が十分に果たせていない</p>

【強み】

- 三重県の観光消費額は、県内総生産の6.3%相当であり、三重県は全国的にも観光の位置づけが高い県といえる（全国10位）
- 知名度が高い国内有数の観光資源や、豊富な食の素材が存在するとともに、鳥羽～志摩エリアに上質な宿泊施設が集積している。

【弱み】

- 宿泊客の滞在日数が短く、多くの顧客が土日だけの宿泊にとどまる
- 滞在日数が長く、かつ、消費単価の大きな首都圏客の割合が少ない
- 他の地域と比較してインバウンド需要を取り込めていない
- MICE開催地としてのブランド構築が途上
- 各地域において観光地経営の司令塔となりうるDMOの不在（DMOの安定的な財源確保にも課題）

◎観光地域診断による、さらなる分析

- 日本観光振興協会「Destination-NEXT※」を活用した観光地診断の結果を受け、改めて分析をして次期基本計画に反映させる（診断結果の速報版は8月に提出）。

※関係者へのアンケートにより、観光地としての強みや課題を可視化・評価する観光地域診断ツール

三重県観光が10年後にめざす姿を提示するとともに、三重県観光の持続可能な成長に向け次期基本計画の3年間において達成すべき目標を設定する。

10年後のめざす姿のイメージ

『三方よし（旅行者よし、事業者よし、地域住民よし）の持続可能な観光地』

次期基本計画の目標イメージ

○三重県の経済発展に観光産業が大きく寄与し、人口減少にともなう地域消費の減少をカバーしている

- ・旅行者よし：観光客が来てよかったと感じ、家族や友人に勧めてくれている
- ・事業者よし：観光産業の利益が増え、従事者がいきいきと働き、おもてなしをしている
- ・地域住民よし：県民が、地域における観光の効果を感じ、観光客を歓迎している

知名度の高い観光資源、豊富な食の素材、上質な宿泊施設があるが、滞在日数が短い

首都圏客・インバウンド需要の取り込みが弱い。三重県観光のブランド構築が途上

持続可能な観光産業の発展に向けてより一層取組を進めることが必要

○質が高く、持続可能な観光地づくり

長期滞在に適したコンテンツやサービスの磨き上げを行うとともに、旅行者を迎え入れる環境整備を進める

旅行者
よし

地域住民
よし

○戦略的な観光誘客の推進

三重の強みを生かした戦略的な観光プロモーションを展開し、国内外からのさらなる誘客につなげる

事業者
よし

旅行者
よし

○魅力的な観光産業の確立

観光人材のキャリア形成支援、給与アップ、人手不足解消など、働きがいのある職場環境づくりに向けた取組を進めることで、観光産業の持続可能性を高める

事業者
よし

地域住民
よし

◎観光DX

各施策に観光DXの視点を取り込む

(観光CRM、デジタルマーケティング、観光産業の生産性向上 等)

効果検証

ロードマップを作成し、PDCAを回して進捗管理を行う
(毎年度、アクションプランを作成)